

小松冴果 個展

「小川のように 静かに流れる」



「そのままの在るべき形で」 H198×W150×D98mm 陶に金彩 2023年

会期：2023年6月2日(金)～6月25日(日)

休廊：月火水木

時間：13-17時

入場：無料

会場：gallery neo_ / Senshu

(つくば市千現1丁目23-4マイコーポ二の宮101)

企画：gallery neo_ (合同会社ネオつくばプロジェクト)

※作家在廊予定 6月4日(日)、25日(日)

この度、gallery neo_/Senshu は、東京を拠点に活動する陶作家 小松冴果 (コマツサエカ) の個展を開催する運びとなりました。約7年ぶりとなる個展では、作家が「出産を期に一変した」という生活の中で生まれた作品群を中心に展開します。

小松によって制作される陶作品は遊び心に溢れ、少女性、女性性を纏いながら幻想的で詩的。その世界は時に怪しくも神秘的で、研ぎ澄まされた現実世界と空想世界の狭間で存在し観るものを魅了します。

本展に寄せて、小松は、「日常から空想を膨らませて作品に仕上げていた私は、自分の持つほとんどの時間を育児に注ぐ中で、何をどう作っていいのかわからなくなってしまいました。子供が生まれたからといって、子供をモチーフとした作品を作ることに抵抗がありました。ダウン症の次女が生まれて、より育児や通院中心の生活になり、コロナ禍も合間ってゆっくりな成長をじっくりと見届けているうち、「自分個人の日常」というよりも『人間の成長』についてをより強く考えるようになり、母としての自分も受け入れられるようになりました。」と話します。

彼女が生活の中で膨らませていた空想の時間は、子供へのまなざしへと変わり、「人間の成長」という視点の中で、制作とは何か、母とは何か、人間とは何か、という問いに対峙します。

人間が生まれてから一つ一つの動きを習得していく様、人格が出来上がっていくことで現れてくる表情、自身が体感したそれらを、彼女の娘たちをモチーフとして陶の立体造形やレリーフとして表現します。

この機会に小松冴果の造形の世界をご高覧いただければ幸いです。



「ただ過ぎ去るのを待つ」 W305×L245×H135mm 2019年

小松冴果 Saeka Komatsu

1984 東京都生まれ。2012 東京藝術大学大学美術研究科描画・装飾研究室修了。レリーフ作品を制作発表していたが、2010年よりドイツ、シュトゥットガルトへ交換留学し、陶での立体作品の制作を開始。新生賞、台東区長奨励賞受賞。全国各地で個展やグループ展を開催。



「笑顔のおすわけ」 W210×D120×H240mm 2022年

【展示・作品に関するお問い合わせ】

gallery neo_ (合同会社ネオつくばプロジェクト)

Email : info@neotsukuba.com (担当：山中)

詳細はギャラリー HP をご確認ください。→

